



弘法市の様子

### ◆取組を開始したきっかけ

勝川駅前通商店街はJR勝川駅から徒歩3分の場所に位置しており、現在、勝川大弘法通りを中心に約50店が店を構えている。そして、当商店街内にある勝満山崇彦寺には昭和3年に建立された高さ18mの「勝川大弘法」があり、商店街のシンボルとして愛されているだけでなく、遠方からも多くの参拝客が訪れる。

また、勝川は、春日井市西部に位置し、名古屋から電車で15分強という立地もあり、ベッドタ

ウン化の進むまちである。平成23年にはJR勝川駅北口の再開発が完了し、駅周辺には多数のマンション建設が進んでいることから、今後も人口の増加が予想される地域である。

しかし、周辺人口の増加が、直接的に商店街の売上に繋がるわけではない。そこで新たに勝川駅周辺に住み始めた人をターゲットに、商店街を身近に感じてもらうためのイベントとして平成15年4月に「弘法市」をスタートさせた。

## 取組 弘法市



### 取組の概要 >>>>

一般的に「弘法市」といえば、弘法大師ゆかりの東寺(京都市)で毎月21日に催される縁日のことを指すが、ここ勝川では毎月第三土曜日(通常午前10時～午後5時)に「勝川大弘法通り」で開催されるテント市のことを指す。約300mの通りに並ぶテントショップやグルメ屋台を目標に、5,000人から6,000人ほどの人が集まる。屋台の出店者に制限はなく、既定の出店料(業種によって異なる)を支払えば、全国から誰でも参加することができる。

また、季節に応じて「お化け屋敷」や「大道芸人によるアトラクション」などのイベントも実施されている。



大道芸人によるイベント



当商店街では、弘法市の開催にあたり商店街の各組合員に負担を掛けないことを心がけている。こういったイベントは組合員の負担が大きいと、継続することが困難になるからだ。出店者の事前の場所割といった業務は全て商店街の事務局が行っているほか、毎回のテント張りに地域の方がボランティアとして参加し、出店者がテント撤去に協力するなど関係者と一体となった運営により、息が長い取組となった。



### 取組の概要 >>>>

7月と8月に開催される「弘法市」では、空き店舗を活用した「お化け屋敷」を運営している。平成25年のテーマは「血まみれの花嫁」。料金は1人400円で、午後3時～午後9時まで入場することができる。

また、お化け屋敷の内装やお化けのメイクは、愛知県立芸術大学等の学生、OB・OGが手掛けている。平成20年に実施された「アートフェスタ(学生が張りぼての山車を作成した)」をきっかけに、商店街と大学との連携が始まった。現役の美術学生やOB・OGが手掛けているだけに、そのクオリティーの高さから訪れた来場者に好評を博している。



▲美術学生が手がけておりクオリティも高い

▶大学との連携によって運営しているお化け屋敷

### ◆取組の効果・課題等

継続して弘法市を開催してきたことで、出店者も全国から集まるなど知名度も高まってきた。また、同時に勝川という街の「ブランド力」を高めることができている。しかし、商店街が本当の意味で活気を取り戻すために

は、弘法市の開催日のみ多くの人々が訪れるようではあまり意味がない。弘法市の来場者が、「日常の商店街」に足を運ぶような仕組みを考案していくことが必要となってくる。

## ほかにもこんな取組をしています

TANEYA(たねや)プロジェクトとは、空き店舗対策として、一軒の空き店舗をシェアオフィス方式で若手起業家に賃貸するプロジェクトのこと。若手起業家に起業のチャンスを提供するとともに、空き店舗を活用した商店街の活性化や人材育成を目的とするプロジェクトだ。

入居者は原則、春日井市内に住む45歳未満の起業家が対象。現在、1階は人気カフェの二号店、2階には幼児対象の英会話教室、はんこ屋さん、ヨガ教室、IT業という異業種の若手起業家5名が入居しており、平成26年1月から各店舗がオープンしている。

プロジェクトを管理するのは、地元の商店主が出資するまちづくり会社「勝川商業開発」。事業のノウハウは、全国のまちづくりに携わる一般社団法人「A・I・A(エリア・イノベーション・アライアンス)」が提供した。

通常は、事前の改修費を見積もった上で、家賃額を決定したのち入居者を募集するのだが、「TANEYA(たねや)プロジェクト」では逆に、先に入居者を決めてからそれぞれが支払い可能な家賃を設定して、その範囲で改修予算を設定する逆算方式がとられているため、入居者にとっては改修費が大幅に軽減できる。入居者の支払った家賃は、それぞれ建築を担当した建築会社の工事代金、店舗所有者の家賃、勝川商業開発の経費に割り当てられる。

## 「TANEYA(たねや)プロジェクト」

また、ノウハウを提供した「A・I・A」には勝川商業開発からの委託料と、入居者からの事業収益の一部が渡される仕組みだ。この仕組みであれば、事業に携わったすべての人や会社が事業開始後も継続して「TANEYA」に関わることになる。商店街にとっては空き店舗を活用することを可能にし、起業家にとっては「リスクを抑えた初期投資ゼロの起業」ができる画期的な仕組みとして評判を呼んでおり、多くの取材が訪れている。



▲「TANEYA」プロジェクトの方々



まち起業シェア店舗「TANEYA」

### 商店街DATA 勝川駅前通商店街振興組合

所在地 ● 春日井市旭町一丁目1番地の3 アクセス ● JR勝川駅 徒歩3分  
組合員数 ● 56名 代表者 ● 川邊 秀晃 TEL ● (0568)31-9282

設立年月日 ● 昭和50年9月4日  
メールアドレス ● info@o-cobo.jp

<http://www.o-cobo.jp/>